めでいかすとる Médicastre

「玉簾の滝」

鶴岡地区医師会　　20年 １１月号

鶴岡地区医師会勉強会抄録

日時:平成 20 年 10 月 1 日(水)
場所:医師会 3 階講堂

『 アトピー性皮膚炎は何故難治・遷延化するのか
－心身医学的治療の必要性－ 』

細谷皮フ科
院長 細 谷 律 子 先生

アトピー性皮膚炎の有病率を２０年前と比較すると、乳児に変化は見られないが、幼小児から成人において増加している１)。厚労省の統計によれば、中等症以上の患者が乳児より学童や成人に多い。元来、大人になればよくなるといわれてきたアトピー性皮膚炎が、近年は大人になってもよくならないのである。その原因として、生活環境の変化やアレルギー因子の増加だけでなく、心理的要因の存在が指摘されている。

アトピー性皮膚炎は“かゆい病気”であり、掻破により悪化する。心理的ストレスもかゆみを生じさせ掻破を惹起させる。また重症化、遷延化している患者の場合、掻破が習慣化していることが少なくなく、イライラして掻いたり無意識に皮膚を掻いたり触ったりしている。さらに掻破行動に心理的に依存し止められなくなっているなど、行動異常としての側面が強くなっている患者もいる。掻破は皮膚のバリア機能の破壊であり、アレルゲンの侵入を容易にする。皮膚の重症化、遷延化をもたらしてしまうのは自明である。このような患者には、一般的な皮膚科治療とともに心理的要因を配慮した治療が必要になる。

ストレス状態が形成されるかどうかは、家族や社会などで生じるストレッサーと、それらをどう受け止めるか、によって決まる。受け止め方には、性格や考え方が反映されるが、患者は概して完全欲が強く、失敗してはいけない、嫌われてはいけないなどの「ねばならない」思いに苦しんでいたり（いたりを削除）いることが少なくない。目標設定が高く、そこに到達できない自分をいつも卑下し、自責的になっている。ストレス状態を形成しやすく、あせったりイライラして掻いてしまうことも多い。そのような患者に対しては、「不安や気分はそのままになすべきことをやっていこう」と行動本位の生活を指導している。行動本位の生活が心理的に変化をもたらす。「こうあるべきだ」という思いこみから抜け出し、不条理も含めたありのままを受け入れる「あるがままの生き方」をめざしていけるよう援助していく。(森田療法的アプローチ)

性格や生き方は、素因だけでなく、養育環境の影響を受ける。従って、小児のアトピー性皮膚炎を治療する際に、母親に対して、患児の心理的側面を配慮して養育するように指導することが大切となる。子供はまるごと愛されていると感じられることが必要であり、そのためにスキンシップや語りかけを行っていくことが重要である。その実践を援助し、また掻く行動を言語化させるなど患児との接し方を指導していく。しかし、母親自身が不安で苦しんでいることも少なくなく、小児のアトピー性皮膚炎を治療する際には、まず母親の心理状態を配慮する必要があることを忘れてはならない。これらのことが皮膚炎の重症化、遷延化を防ぐために必要であると考えている。

参考文献

1)上原正巳:最新皮膚科学体系 3(玉置邦彦総編集)中山書店 p37,2002

日時：平成 20 年 10 月 31 日（金）
場所：グランドエル・サン

観　　楓　　会

色づき始めた街路樹もすっかり秋の落ち着きを見せてきた１０月の最終日、グランドエル・サンに於いて観楓会が開催されました。激しい雨の降りしきる日でしたが、ギターの音色が流れる会場は暖かさに包まれていました。

あでやかな和服姿の保険福祉部長 福原晶子先生の進行のもと、中目千之会長からご挨拶と新規開業された先生のご紹介をいただき、その後当地区医師会議長 黒羽根洋司先生のご発声のもと賑やかに宴が始まりました。

新規開業の高橋由至先生、高橋良士両先生からも、一言ずつご挨拶をいただきました。遠方からご出席いただいた、ご来賓の山形県医師会会長の有海躬行先生のご挨拶もいただきました。出席者は来賓５名、会員・ご家族４０名、職員他１８名、総勢６３名で、とても賑やかな会となりました。荘内病院地域医療連携室 長谷川伸さんのギター演奏が、深まり行く秋の夜に彩りを添えてくれました。

終了は例によって鈴木伸男先生の一本締めで閉会となりました。

湯田川温泉リハビリテーション病院
リハビリテーション科　科長　粕谷砂知子

日時:平成 20 年 10 月 26 日(日)
場所:日本海一円

平成 20 年秋季鶴岡地区医師会つり大会

つり同好会 会長 佐 藤 洋 司

10 月 26 日医師会つり大会が執り行われましたので結果をお知らせします。(今回の参加者は過去最高の 27 名でした。)

金曜日は大雨にもかかわらず波もなく不思議に思っていました。次の日には好天となりましたが朝から磯は突然の大荒れとなり、米子港では釣り人がその大波で防波堤に取り残されたり波にさらわれたりで死者が出ないのが幸運でした。そのような条件でしたが、まさか庄内は日曜日も大荒れで雨もひどいとは予想できませんでした。

我々は前日の好天・大波の中、南の方に出発。釣り場は波もなく水が透明で海温が高く磯が若い感じで、ここ数年の悪夢がよみがえってきました。試し釣りでも案の定ふぐだらけでまったく釣りになりませんでした。

当日早朝、岩船港まで北上しましたが、ここもふぐだらけで早々に撤退し前日の場所に戻り粘ることにしました。そこでもふぐだらけで他の魚が時々ポツリポツリと釣れるのみで、これでは BB 狙いだなあとボヤいて帰途に着きました。途中から雨が降り出しだんだんひどくなり波もかなり高い状態でした

計量になったら、皆さん遠慮がちに釣果を出すではありませんか。どうしたのかと思ったら庄内は大荒れでその上ふぐの被害がひどかったようであまり釣れなかったようです。おかげで南下組は優勝は逃しましたが上位に食い込むことが出来ました。皆さん釣りの際の天候の急変にはくれぐれも御注意ください。それでは結果をお知らせします。(敬称略)

優勝	吉住 忠	五目賞(6)	吉住 忠
二位	佐藤 洋司	珍魚賞(アナゴ)	菅原 翼
三位	宮崎 健志	小物賞(フグ 29)	五十嵐一利
四位	塩原 茂	外道賞(フッコ)	塩原 茂
五位	斎藤 高志	大物賞(二才 1 匹)	斎藤 高志
BB	岩根 広和	(番外 10 名でした)	
BM	熱海 雅之		

管理課 吉 住 忠

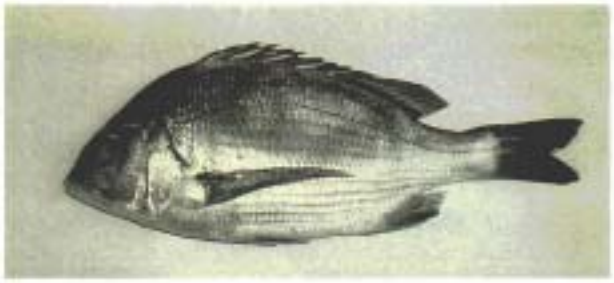
10 月 26 日恒例の医師会釣り大会が日本海一円をフィールドに行われた。参加人数は過去最高の 27 名と多く、北は酒田から南は新潟東港と各自思い思いのポイントを目指し戦いが始まった。

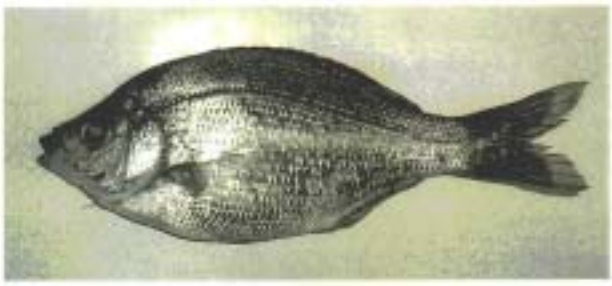
前日から低気圧が近づき波高も予報では 2～2.5m (実際は 5～6mと防波堤を超え) と高く危険が伴うため酒田周辺と決めていた。午前 5 時前に起床し一路酒田北港を目指し 5 時 50 分現地着、第 1 投、すぐに手応え！1 年ぶりの「グググー」という感触が竿先から伝わってきた待望の「シノ子鯛」ゲット！4～5 匹上げているうちに夜が明けてきたら、嫌な引き！？「まめふぐ」である。数回投げ入れても釣

れるのは「ふぐ」ばかり・・・ちょっと前まで星が見えていた空が一面、雨雲に覆われてきた。雨、風が出て来て釣果も怪しくなってきたので、酒田本港へ移動した。しか内にはまたまた「ふぐ」だらけ・・・ふぐ集団の下で優雅に泳ぐシノ子鯛を狙ってはみるも、多勢に無勢である。御橋次長が秘策を手に持ち遠征し3匹の「シノ子鯛」を釣り上げ、職員もあちらこちらに釣果を期待し竿を出しこれからと思っている内に、沖合いでは、落雷、数分で台風並みの暴風雨になり立っていることすらできない状態。釣りをしていて今までで経験したことがない（普通なら絶対行きません）天気となり速攻退散せざるを得なくなった。

午後3時過ぎセンターで計量が始まった。最悪の天候の中、斎藤高志先生が20㎝を越える二才1匹、センター職員の翼君が71cmの太刀魚などが上がったが、皆さん釣果は今ひとつであった。

これから12月までは黒鯛釣りが本番になり釣り好きなら居ても立ってもいれない時期ではないでしょうか。穏やかな海も時には牙をむき一時と待ってはくれません。行く前には天気はもちろんの事、波の高さもしっかり確認し無理のない安全第一の楽しい釣りを満喫してはどうだろうか。





◆◆　連載　庄内プロジェクト　第１回　◆◆◆◆

庄内プロジェクト：荘内病院の役割を中心に

荘内病院外科主任医長
鈴 木　聡

1. はじめに

厚労省事業「緩和ケアプログラムによる地域介入研究」、いわゆる庄内プロジェクトが平成 20 年 4 月から開始されました。介入研究の目的は、3 年間で地域の患者・遺族の苦痛緩和の評価が改善するか、緩和ケアの利用数が増加するか、死亡場所が患者の希望に近い形に変化するか、の 3 点です。そのための介入内容は５項目におよび、第一は、緩和ケアの標準化、すなわち、緩和連携ツール 3 点セット（生活のしやすさ調査票、退院カンファレンスシートや、私のカルテなど）を広く配布し、利用してもらうこと、第二は、地域カンファレンス、セミナーなどを通して地域連携を強化すること、第三は、地域緩和ケアチームなどの専門サービスを気軽に利用できる体制を整えること、第四は、リーフレット、冊子などを配布し市民への情報提供をはかること、そして最後に、一時入院・症状緩和できる施設を複数開拓することです。プロジェクト開始を受け、荘内病院には「緩和ケアサポートセンター」と「緩和ケア外来」が開設され、また、地域には「地域緩和ケアサポートチーム」が結成されました。今回は、「緩和ケアサポートセンター」と、「緩和ケア外来」を中心に、荘内病院が果たすべき役割について説明いたします。

2. 緩和ケアサポートセンター

荘内病院には、庄内プロジェクトの司令塔の役割を果たす緩和ケアサポートセンター（以下、サポートセンター）が開設されました。これは、地域医療連携室内（外来棟２階）におかれ、専任看護師２名、ＭＳＷ２名、事務職３名、プロジェクトの研究員２名が対応しています。サポートセンターはがん緩和ケアの総合相談窓口として機能しており、プロジェクト対象患者の、退院支援のためのカンファレンスの開催、緩和ケアの普及・啓発のための情報発信、各種研修会の企画など、緩和ケアに関わる様々な場面で活動しています。地域の診療所から依頼のある、当院緩和ケア外来への受診手続きも、サポートセンターで行いますので、電話や緩和ケア専用ＦＡＸ（オレンジ・ペーパー）でお申込下さい。

この４月からサポートセンターに届いた、がん緩和ケアに関する市民からの相談件数は、4 月 31 件、5 月 19 件、6 月 27 件、7 月 18 件、8 月 7 件で、主な相談内容は、「庄内プロジェクトの対象患者になるには」など、プロジェクトの詳しい内容や、がん診療に関わる経済的なことや、社会資源についてでした。

3. 退院・支援調整カンファレンス

庄内プロジェクトの中で、最も重要視されているのが、退院支援・調整です。プロジェクトの対象患者を選定し、地域全体でその患者さんをサポートしていく体制作りを通して、患者さんの希望に近い場所で看取りが実現できるかが目的となります。荘内病院では、医師、看護師が中心となり、がんの入院患者さんに対するスクリーニングシステムが構築され、プロジェクト対象者になることを希望された場合、退院前に退院・支援調整カンファレンスを開催しています。

カンファレンスは、荘内病院で午後 7 時頃から、約 1 時間かけて行われます。参加者は、患者さんの家族、在宅主治医、訪問看護師、ケアマネジャー、病院主治医、担当看護師、院内緩和ケアチーム（医師、看護師、薬剤師、臨床心理士など）、サポートセンター職員、さらにオブザーバーとして医師会正副会長など、総計 15 名ほどでカンフ

ァレンスを開き、在宅診療での役割分担、急変時の対応などについて最終確認を行います。短時間で効率の良いカンファレンスを目指しています。

9 月 30 日現在、庄内プロジェクトのカンファレンス実施患者数は、荘内病院が 9 名、鶴岡協立病院 10 名で、計 19 名にのぼります。荘内病院の 9 名の内訳は、男性 6 名、女性 3 名で、平均年齢は 73 歳、疾患は消化器癌が 7 名、乳癌 1 名、腎がん 1 名で、関わっていただいた在宅主治医が 8 名、訪問看護施設が 3 箇所、必要な処置の主なものは、ＣＶカテーテル使用 2 名、末梢静脈ルート使用が 4 名、オピオイド使用が 3 名でした。退院場所は自宅が 8 名、施設が 1 名で在宅死が 4 名、病院死が 3 名でした。

なお、プロジェクト対象患者は、入院患者に限らず、現在外来通院されている患者さんにも適応は可能です。詳しくはサポートセンターにお問い合わせ下さい。

4. 緩和ケア外来

緩和ケア外来は、在宅主治医がプロジェクト対象患者さんの容態が変化し、症状マネジメント等で困ったときに、より専門的な緩和ケアを提供するために患者さんに受診していただきます。診察後は、帰宅していただく場合もありますが、症状マネジメントをより効果的に行う必要性から、一旦入院して治療を継続する場合もあります。緊急時は、当院の救急センターがその役割を担います。患者さんの家族あるいは在宅主治医が、当院救急外来や救急車要請のために連絡する場合は、「庄内プロジェクト対象患者」である旨を電話口で名乗っていただくと、よりスムースな診療体制がとられるシステムになっていますので、ご協力を御願いします。現在まで、救急外来を含めた緩和ケア外来の利用者は 7 名です。

5. みなさまへの御願い

地域診療所の皆さんには以下の点でご協力をお願いします。まず、在宅支援が必要ながん患者さんへはできる範囲内での訪問診療を御願いします。そして、困ったときには遠慮せずに、緩和ケアサポートセンターを利用してください。また、定期的に開催される多職種多目的ミーティングや、各種緩和ケア研修会に積極的に参加して情報の共有と緩和ケアのスキルアップをはかっていただきたい。一方、最終的に入院治療が必要な患者を地域全体でケアする意味から、荘内病院や協立病院以外にも、一時入院や症状マネジメントができる地域協力施設を確保することが必要となってきます。地域内の病院や有床診療所、多様な専門科診療所が参加できるチームづくりを進めながら、地域医療連携の充実を目指す意味で、今後これらの課題を解決していきたいと思います。

6. さいごに

庄内プロジェクトの開始前には、在宅の機会のないまま仕方なく病院で最期を迎えなければならなかった患者さんが多くいたことが想像されます。さぞかし、無念で、浮かばれない魂も多かったことでしょう。庄内プロジェクトは、がん患者さんの「自宅で暮らしたい」、「自宅で最期を迎えたい」という自然な気持ちを精一杯応援してあげるプロジェクトです。みなさんの力が結集できれば、必ずやすばらしい看取りが実現できると思います。ご協力を御願いします。

故　荻原　　満　先生のご冥福をお祈り申し上げます。

平成 20 年 10 月 19 日死亡　享年 86 歳

弔　　辞

荻原　満先生。先生は、雲ひとつ無い澄み切った秋晴れのもとで、一昨日の午前 9 時 25 分、静かにご逝去なされました。

先生は、最近、体調をお崩しになられ、療養を続けられているとお聞きし、その後のご様態を案じておりましたが、昨日、忽然と永眠されたという訃報をお聞きしました。

私どもは、優れた先達を失い、にわかに幽明さかいを異にされたことは、当地域医療界にとりましても悲しみは大きく、またご家族、ご親戚の方々におかれましても、お悲しみはいかばかりかとご推察いたします。医師会員並びに職員一同心からご冥福をお祈り申し上げます。

顧みますと先生は、昭和 23 年に岩手医学専門学校をご卒業された後、翌年の 7 月に岩手医科大学小児科医局に入局され、昭和３０年 10 月に退職されるまでの 6 年間にわたり、同医科大学小児科に奉職され、その後、独立して開業されました。実に 60 年間の長きにわたり地域医療にご活躍されました。

この間、鶴岡地区医師会では、理事１０年、副議長 8 年、議長 2 年という大役を果たされました。

また、先生は、学校医、産業医としてもご活躍され、平成１３年には保健衛生功労者として山形県知事表彰を、また、平成 16 年には鶴岡市から市制施行８０周年特別表彰を受けられ、さらに平成１９年には、再度、山形県知事から乳児院・児童相談所における嘱託医のご活躍が認められ、その栄誉を授かりました。

このように先生が長い期間にわたって、当医師会あるいは地域医療に関わってこられましたのも、ひとえに先生の地域医療に対する厚い情熱と志による賜物であり、また、先生の温厚篤実、ご高潔なお人柄が大勢の方々から信頼を得てきた証だと思います。

特に先生は、鶴岡市の母子保健衛生には格別な情熱を注いでいただき、お父さまの巌先生が昭和 20 年ころから始めた鶴岡市の保育相談を引き続いてお引き受けいただき、昭和３５年からは山形県児童相談所と県立乳児院の嘱託医として、家庭的に恵まれない子どもの面倒をみていただきました。さらに、このような母子保健のみならず、

予防接種、感染症対策の面でも貢献され、これが二度にわたって県知事から表彰された所以だろうと思います。

先生は、平成１３年の県知事から表彰を受けた際に、今後のご自分のライフワークのスタイルとして次のように発言されております。

「今後のライフワークは、実践研究の超音波、エコー健診に努力しながら、一方においては、子どもに注射の恐怖や白衣の恐怖感を与えない医師としての研究を進めるよう自らを奮起させたい」と語っております。いつも、子ども達を思い続けている「優しさ」は、我々も頭の下がる思いでした。

また、先生は本業のほかにも、医師会の「わかあゆ会」の会員としてもご活躍され、後輩の育成指導に努められたほか、白甕社会員としてもご活躍され、県展入選や日本医師会会報の表紙に取り上げられ、特に四季折々に描いた月山の雄大な描写は、先生ならでわの技であり、その成果を医師会をはじめ、多くの公共施設にご寄贈いただいたことは数えきりありません。

私個人の、先生の思い出は、先生はよくお酒の席で昔話をしてくれました。自分は、学生の頃、かなり重い結核になり、戦争への従軍もままならなくなった。

まわりの人に、自分が一番早く亡くなるとよく言われた。ところが、友人の方が先に亡くなり、結局、私が一番長生きする人になっていた。人の命ほど分からないものはない、というお話しを何度もなされました。

人生は、測り知ることが出来ない。人生を予想することは出来ない。

先生は、私にそのように訓示されたと思い、その後の生きる上での、私の信条の一つとしております。

先生からご指導・ご薫陶を受け、医師会活動を共に展開してきた私どもは、この医療界の苦難のときに、先生を失うことは、誠に残念至極でなりませんが、先生がこれまで当医師会や地域医療に果たされてきたご功績は、私どもの伝統として受け継がれるべきものと思います。

先生、どうぞ私どもを、これまで以上に見守ってください。

最後に、本日のお別れに際し、先生のご逝去を悼み、また生前の輝かしいご功績とご遺徳を偲び、心からご冥福をお祈り申し上げ、お別れの言葉といたします。

どうぞ、先生、やすらかにお眠りください。

平成２０年１０月２１日

鶴岡地区医師会

会　長　　中　目　千　之

日時:平成 20 年 9 月 28 日(火)

場所:湯野浜 CC

鶴岡地区医師会ゴルフコンペ

誤球でも優勝！？

齋　藤　　慎

ゴルフは何がおきるか分からない。

今年から鶴岡地区医師会親睦ゴルフコンペが春秋２回開催されることになりました。第１回の結果は「めでぃかすとる」１９５号に福原先生が報告しております。

私は第１回の春の大会ではハンデと「まぐれ」に恵まれて優勝させて頂きました。

第２回大会は９月２８日。天気は晴れ。１番ホールはパー４の左ドッグレッグ。第１回大会では２オン１パットでバーディーでした。これが頭にあり、力んだのでしょう。ティーショットは左に出てコース左角の木の根元。出すのにてこずり４オーバーの８。２番ホールはパー４のストレートコース。オナーは湯田川リハ病院の中村誠一さん。第１打は左に出て隣りのコースへ。続いて私は前ホールのモヤモヤが取れないままに打つと、ボールは左の立ち木に当り、やはり隣りのコースに転落。さて隣のホールに降りて、落ちたであろう場所のボールをクリーンヒットして戻ってみると、隣りのコースで中村さんがウロウロして怪訝な顔をしています。何と言う事でしょう。私が撃ったのは中村さんの球でした。丁度前の組で回っていた中目先生に「誤球はペナルティーいくつ」と聞くと笑いながら「２ペナ」と明確に答えてくれました。結局このホールも４オーバーの 8。これで自滅沈没が決定してしまいました。その後もスコアは低調で、お昼にアルコール燃料を注入しても後半もそのままで続き、結局前半５１、後半５５の１０６で４位でした。

夜の表彰式では１位の小野寺先生始め入賞者の表彰があり、豪華景品の授与式の後に年間通算の優勝者の発表がありました。何と私が三原先生と僅差でクリスタルの総合優勝盾を頂きました。来年は腕に覚えがある先生・職員はぜひ参加してください。

福原先生を始め、裏方のセットを用意してくれた職員の皆さんご苦労様でした。

表　紙

「玉　簾　の　滝」

齋　藤　壽　一

紅葉には少し早いが故に人込みを避け得るとして、升田過日鳥海山麓地区にある“玉簾の滝”を訪れた。玉簾とは玉で飾ったすだれの意だそうだが、この滝はそれに相応しく透けて見える程の水量であった。高さは十分だが幅がもう少しあればと感じたが、なかなかの名瀑であった。

～　編 集 後 記　～

伊藤　末志

私ども小児科医の大先輩である荻原満先生がお亡くなりになりました。また、私の恩師である堺薫新潟大学名誉教授（享年 82 歳）も 10 月下旬にお亡くなりになりました。

以前、この編集後記で荻原先生の「月山」の絵のことを話題にしたことがありました。とてもお喜びになっていたことを思い出します。堺先生には多くの国際学会に連れて行っていただき見聞を広めさせていただきました。感謝しています。両先輩のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

さて現世では近頃、周囲を取り巻く状況の変化が速すぎて目が回りそうな日々が続いています。とても追いついて行けそうもないので、小さなことには目をつぶる他ないのかななどと不埒なことも考えています。

世論調査と同じ結果が出るのか最後までワクワクさせられてアメリカ合衆国大統領選挙も終わりました。オバマ氏のセイフティー・ガードには相当お金がかかりそうですが、アメリカ人の常識が示されてやれやれと思っている人は多いのではないでしょうか。そのような選挙速報を横目で見ながら今日、初めて県医師会関係で TV 会議なるものを体験しました。今回は会議出席者相互の表情を見ることができず残念でしたが、システムの完全の余地はありそうです。県医師会館での会議出席のために降雪時の自家用車での月山越えは、目が回りそうな人には危険過ぎると思います。可能な限り TV 会議で済まされるようにお願いしたいと思っています。

10 月 13 日から始まった当地区医師会担当の“朝だ！元気だ！6 時半！！”も終盤に差し掛かっています。渡部隆二先生から始まり、斎藤慎先生、小野俊孝先生、土田兼史先生、本田学先生と続き、第 6 週目（11 月 17 日から）の鈴木聡先生が「庄内プロジェクト」のお話をして終了になります。出演者の皆様大変ご苦労様でした。私はちょうど朝の犬の散歩中なので聞き漏らすことはありません。今まで明かされていない出演者の“人となり”などが穏やかな口調で語られます。1 週間分はテープに収録されて出演者に渡されます。聞き漏らした場合でも本人にお願いすれば聞けるかもしれません。

とにかく目を回しすぎて痛いところにぶつからないように気を付けて行きましょう。

編集委員：中村秀幸・伊藤末志・福原晶子・斎藤憲康・小野俊孝・渡部隆二

発 行 所：社団法人鶴岡地区医師会　山形県鶴岡市馬場町 1- 34

TEL 0235- 22- 0136　FAX 0235- 25- 0772　E-mail　tsurumed@mwnet.or.jp

URL　http://www.mwnet.or.jp/~tsurumed/

印 刷 所：富士印刷株式会社　鶴岡市美咲町 27- 1　TEL　22- 0936(代)